

## 1 県政の見える化について

### (1) 目的

「県が何をやっているのか分からない」と多くの県民から指摘されている。そこで茨城県政をもっと県民に見えやすくするため、政策決定過程の一つである審議会等の公開状況を点検し、改善方法を提案する。

### (2) 活動時期

令和5年1月～3月

### (3) 主な調査先

2月6日：茨城県庁にて行政経営課と意見交換

3月10日：茨城県庁にて障害福祉課と意見交換

2月7日～3月17日：インターネットで全都道府県の状況を調査

### (4) 活動内容

これまでに市民ネットワークへ寄せられた県政の公開・情報提供に関する問い合わせ、意見を元に、県の担当課から審議会等の公開状況について聴取し、全国の都道府県の状況を比較調査し、茨城県の問題点と改善方法を洗い出した。

調査の結果、ほとんどの都道府県で制定されている審議会等の公開条例や要綱が茨城県ではまだ制定されておらず、茨城県のウェブサイトに審議会等の一覧がないことが明らかになった。特に、障害者差別解消支援地域協議会これについて3月の定例会において一般質問と予算特別委員会で取り上げ、茨城県でも審議会等の公開制度を定めるよう提案した。

### (5) 成果等

知事は一般質問の答弁で審議会等の公開制度の必要性を認めることはなかったが、茨城県ウェブサイトの中に「審議会等の一覧」が掲載されるようになり、それぞれの会議名から運営規則、委員名簿、議事録などが閲覧できるようになった。ただし、公開されていない会議がまだ多いため、公開していない理由の確認を引き続き行っていく。

## 2 不登校児童生徒の支援について

### (1) 目的

各地で増え続けている不登校児童生徒に対する多様な居場所の確保、学習機会の保障など、当事者や保護者のニーズおよび支援の現状について調査し、支援の充実を図る。

### (2) 活動時期

令和5年1月～3月

### (3) 主な調査先

2月2日：ドキュメンタリー映画「夢見る小学校」上映会

2月3日：不登校・多様な学びネットワーク主催のオンライン意見交換会

2月8日：茨城県教育庁学校教育部義務教育課生徒支援・いじめ対策推進室に不登校児童生徒の支援施策について聞き取り

### (4) 活動内容

不登校児童生徒の居場所づくりに取り組んでいる民間フリースクール、校内フリースクール等の関係者、スクールカウンセラー、保護者等と意見交換する会議に参加し、県内各地で行われている支援の状況と課題、必要な施策について意見交換を行った。

また、茨城県教育庁が取り組んでいる不登校児童生徒支援の施策を義務教育課生徒支援・いじめ対策推進室より聞き取り、支援の拡充について意見交換を行った。

### (5) 成果等

不登校児童生徒の保護者や関係者の話から、不登校になる理由は様々であるが、その背景には先生方が多忙で一人一人に向き合う余裕がないことがあるのではないかと、また不登校になっても、安心できる居場所があれば、子ども達は自分らしさを取り戻し、時間がかかっても元気になっていくことが分かった。

そこで、まず学校が安心できる居場所になるよう、校内フリースクールの試みが始まっている。民間フリースクールもあるが、家庭の費用負担が大きい。国では教育機会確保法を制定したが、財政的な裏付けはなく、自治体の自主的な取り組みに委ねられている。そこで、3月定例会の一般質問において、茨城県として先進的な市町村の取り組みを全県に広げる施策や、国へ実効性を高める施策を求めることを提案した。

### 3 有機農業の推進について

#### (1) 目的

生物多様性を守り、持続可能な社会を実現するために、有機農業は大変有効だが、日本では広がっていない。安全な食と環境を守る運動が各地で粘り強く広がり、農水省がみどりの食料システム戦略で、2050年までに農地の25%を有機農業にするという目標を掲げた。そこで茨城県における有機農業推進の現状と課題、推進施策について確認する。

#### (2) 活動時期

令和5年1月～3月

#### (3) 主な調査先

1月25日：つくば市内の有機農業生産者と面談

2月20日：茨城大学主催の有機農業フォーラム「有機農業の普及拡大に向けた地域連携プラットフォームの構築」にオンライン参加

3月2日：茨城県農業技術課に有機農業の推進施策について聞き取り

#### (4) 活動内容

つくば市内の有機農業生産者からは、茨城県・特につくば市周辺の県南地域における有機農業の現状、課題について意見を聞き取った。

茨城大学主催の有機農業フォーラムでは、①農業・食品産業技術総合研究機構の三浦重典氏より米の有機栽培のための技術開発について、②あすか農園の赤須順氏より有機水稲と有機ブドウの栽培について、③いばらき有機農業技術研究会の松岡尚孝氏よりJA常陸大宮での取り組みについて、話題提供を受け意見交換を行った。

茨城県農業技術課からは、県内の有機JAS認証面積の現状は300ha弱で県内農地の0.2%であり、有機農業推進基本計画で2025年までに1%の目標を掲げ、2018年から「いばらきオーガニックステップアップ事業」により県北地域における有機農業の取組を推進してきたが、今般の肥料価格等の高騰を契機に、化学肥料や化学合成農薬を使用しない有機農業を県内全域に拡大するため、2022年6月の補正予算で「いばらきオーガニック生産拡大加速化事業」を創設して取り組んでいることを確認した。

#### (5) 成果等

つくば市内の有機農業生産者からの聞き取りでは、「有機農業の生産者は小規模なところが多く、集荷や流通まで担うことが困難で苦労している」「茨城県の担当課が物流の改善に取り組んでくれている」「市町村が地域全体で取り組むオーガニックビレッジに手を挙げて欲しい」との意見をいただいた。また、オーガニック生産拡大加速化事業による機械導入等、効果が表れているとの評価を得た。しかしながら、現状では県内で有機農業の拡大は進んでいない。

そこで3月の定例会において、有機農業の現状と課題、今後の推進施策について一般質問し、生産性向上を図る機械の導入等の支援や有機JAS認証の取得支援、行政・生産者・流通業を含めて知恵を出し合うネットワークを通じた

生産と販売のマッチング、指導員の育成などを総合的に支援していく、との農林水産部長の答弁を得た。そこで、県内各地に有機農業推進を拓げるため、市町村単位でのオーガニックビレッジ宣言を支援するよう要望した。

## 4 広報活動

### (1) 目的

県議会における活動の様子や議会の状況を県民に知らせるため、県議会レポートを発行した。

### (2) 活動時期

令和5年3月

### (3) 活動内容

うののぶこ県議会レポート Vol.1 を作成し、新聞折り込みなどで配布した。

### (4) 成果等

レポートを読んだ住民の方々から「これまで知らなかった県議会のことが分かり、県議会が身近になった」等の感想をいただいた。

The collage displays three pages from the 'うののぶこ 県議会レポート' (Uno no buko County Council Report). The top left page is the cover, featuring a woman's portrait and the title. The top right page is an article titled '信号機撤去の理由は?' (Reasons for signal removal?). The bottom left page is an article titled '犬猫殺処分ゼロ! を続けるために' (To continue achieving zero dog and cat euthanasia!). The bottom right page is a flowchart titled '審議・議決の流れ' (Flow of deliberation and decision).